

ときがわ町水道審議会会議録

会議の名称	平成30年度第1回ときがわ町水道審議会
主な議題	町長から審議会長へ諮問 ときがわ町水道事業経営戦略について
開催日時	平成30年6月27日(水) 開始 14時00分 終了 15時50分
開催場所	ときがわ町役場第二庁舎3階協議会室
会議録の公開(非公開・一部非公開)とその理由	公開
出席者	桐ヶ谷富夫会長、前田 栄副会長、野原和夫委員、峯岸正明委員、前田郁子委員、戸口隆雄委員、岡本 忠委員 渡邊一美町長、水道課伊得正巳課長、小林大介主幹、新井裕文主査、馬場卓哉主査
審議等内容又は概要	<ul style="list-style-type: none"> ・桐ヶ谷富夫会長あいさつ ・渡邊一美町長あいさつ ・自己紹介(委員7名及び事務局4名) ・町長から審議会長へ諮問 ときがわ町水道事業経営戦略の策定について (終了後、町長退席)
	<p>議事1 ときがわ町水道事業経営戦略について</p> <p>議長 桐ヶ谷富夫会長</p> <p>説明者 事務局</p> <p>説明の概要 資料No.1～3によりときがわ町水道事業経営戦略(素案)について事務局が説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ①計画の背景と目的 ②計画期間 ③ときがわ町の概要

	<p>④事業概要 ⑤将来の事業環境 ⑥経営の基本方針</p>
質 疑	
委 員	1. 計画の背景と目的（1）背景、及び2. 計画期間には「中長期的」とあるが、計画の背景と目的（2）目的には「中期的」とある。今回の経営戦略の計画期間はどちらになるのか。
事務局	計画の背景と目的（2）目的の「中期的」が誤りであり、「中長期的」が正しい。修正させていただく。
委 員	1. 計画の背景と目的（1）背景に「事業経営は厳しさを増している」という表現がある。水道事業は厳しい状況でもやっていかななくてはならないものであると思うので、あまり強調しなくても良いのではないか。
事務局	意見として伺い、表現について検討させていただく。ただし、実際問題として財政が厳しくなっている中でのことである。
委 員	水道事業は水道料金収入を以って事業を運営していくことが基本である。ときがわ町は一般会計からの補助金がないと赤字経営となるので、他の水道事業体よりもかなり厳しい経営状況である。このままの状態だと後世の住民に多大な負担がかかってしまうという認識を住民の皆様を持っていただくためには、この表現があった方が良いと思う。
委 員	高料金対策としての一般会計からの繰入がいつまで続けられるか。この厳しさは町民はあまり知らないと思うので、厳しさは厳しさで表現した方が良いと思う。
委 員	経営比較分析表の⑤料金回収率において、課題として費用の削減について表記されているが、料金改定について表記しないのか。料金回収率が低い状態であるため、料金改定が必要であると結びつけた方が、説明しやすいのではないか。一般の方が見た場合、費用の削減で低い料金回収率を解決できてしまうと思ってしまうのではないか。
事務局	平成29年度の状況については、水道料金の改定も踏まえて分析し評価していく。

	<p>委員 事務局</p> <p>一般会計から繰入を行っている経緯は。 都幾川、玉川水道事業団の時から高料金対策補助金として一般会計から繰り入れられてきた。平成22年に和田浄水場を受水場とし、自己水から県水受水に切り替えたことにより受水費用が高額となった。事業運営が赤字になることは分かっていたが、当時の政策的な判断により料金改定は行わず補助金を増額することで対応した。</p>
	<p>委員 事務局</p> <p>和田浄水場で自己水を確保することが困難となったため、県水を受水することになったと認識している。現状では県水7割、自己水3割くらいの割合だと思うが、自己水を増やすための努力ができるのか、また有収率を向上させるための対策を重要課題として計画に入れ遂行していくのかを協議していったほうが良いと思う。現状分析を見ると多々問題があるのでそれを直していくことを位置づけないと前に進まないと思う。</p> <p>事務局</p> <p>経営戦略を策定する際に記載する必要のある6項目について説明したが、それらについて審議会において審議していただくことになる。まず今回の審議会においては現状について分析していただき、次回の審議会では財政計画等、将来の見通しを審議していただき、経営戦略を作っていくことになる。</p>
	<p>委員 事務局</p> <p>そのためには現状を分かっただけが必要がある。誰も水道料金は上げたくないし、自己水も足りていないが現実はお金がないとどうにもならないから、その面を分かってもらわないと、理想だけでは話は難しい。</p> <p>事務局</p> <p>そのようなことを含めて、今後の10年間をどういう形にするが、この計画になる。</p>
	<p>委員 事務局</p> <p>有収率を上げないと、その分は料金として町民の負担になっているので解決する必要がある。また広域化を進める国の方針が示されているが、いずれ広域化されるのか。</p> <p>事務局</p> <p>様々な視点からの取り組みについて今後説明させていただきます。</p>
	<p>委員</p> <p>5. 将来の事業環境 (5) 組織の見通しにおいて職員</p>

	<p>数の維持は必要とあるが、現状、職員は多いのか少ないのか。</p> <p>事務局 今後事業が増大した場合、増員も必要と思われるが、現状の町の組織の中で、水道課職員を増員させることは厳しい。そのような状況の中で民間との連携や、現在行っている県企業局との技術連携などを通して事務の効率化を図っていければと考えている。</p> <p>委員 6. 経営の基本方針（1）基本理念において経営の効率化や健全化とあるが、どのようなことか。</p> <p>事務局 広域化も視野に入れている。現在国会において水道法の一部改正が閣議決定されている。法案が可決されれば県が先導となり広域化を進めることとなる。埼玉県の水道ビジョンでは平成 42 年度までに県内を 12 ブロックに集約、平成 72 年度までには県内を統一し一本化する大きな計画となっている。そういう長期計画の中で動いているので、ときがわ町水道事業のレベルも向上させていく必要がある。また民間との連携活用も効率化の一つとして考えている。その他に施設の規模の適正化や性能の合理化などにより、今後の経費削減に取り組んでいる。</p> <p>委員 この基本理念というのはよくできていると思う。</p> <p>委員 水道事業においては、水道ビジョン、アセットマネジメント、経営戦略があるが、それらの統一性を持たせないと住民への説明が難しくなるので調整が必要と思うが。</p> <p>事務局 次回審議会において、アセットマネジメントを示しながら、今後の財政計画について説明させていただく。 町の水道ビジョンは平成 34 年度までの計画となっており、大きな枠組みの中で整合性を図っていく。現段階で水道ビジョンの修正するとかは考えていない。</p> <p>委員 一般会計からの繰入金には町の財政がいかんして捻出できるかという問題もある。町はお金がない現状に来ている。その辺も視野に入れていく必要がある。有収率が低いことは町民の負担となっている。水道料金の値上げだけではなく、有収率向上について計画に入れていかなければ町民の理解は得られないと思う。</p>
--	--

	<p>事務局 高料金対策補助金は経常経費の赤字補てんとして水道事業運営に充てられているが、それ以外に施設の更新などに投資していかなければならない。仮に有収率が90%になったとしても補助金なしに赤字にならないという話ではない。料金収入が上がらない限り実質赤字を減らすことは困難である。次回の審議会においては、それらのことを踏まえ財政計画等について説明させていただくのでご審議いただきたい。</p> <p>委員 県水の受水量についても再考すべきではないか。</p> <p>議長 次回の財政計画や更新計画について検討する際に、今の施設から確保できる自己水はどのくらいで、そのために必要な更新費用はどのくらいか、また県水を受水した場合の費用はどのくらいかなどを比較することになると思うので、その際にご検討いただきたい。</p> <p>事務局 また平成22年度から高料金対策補助金が増額されているが、県水の受水量を増やさざるを得なかった理由や経緯について説明しておいたほうが、委員の皆様にも分かりやすいのでは。</p> <p>事務局 和田浄水場において安定した取水が困難になったことに併せ、他の事業体においてクリプトスポジウムによる被害があった。安定した取水が困難になったうえに、クリプト対策に多大な費用がかかるため、和田浄水場を県水受水場に切り替え、安定供給を図ったものである。</p> <p>委員 他の自治体において、県水を買っているにも関わらず水を余らせてしまい捨てていたと聞いたことがあった。ときがわ町では平成28年度に受水量を減らしている。そのことは良いことだと思う。受水量を減らしても水は間に合っているのであれば、今後は企業を誘致して水をたくさん使ってもらえれば良いと思う。</p> <p>委員 水道料金はたくさん使うと安くなるものなのか。</p> <p>議長 電気及び水道などの公共料金は、使用量抑制の意味を含め、使えば使うほど高くなっていくのが一般的である。メーターの口径が大きくなれば基本料金も高くなることと同じ考え方である。</p>
	<p>議事2 その他 説明者 事務局</p>

	<p>説明の概要 事務局から次回開催日時について、平成30年9月最終週～10月第1週で調整を提示した。 (全員了承)</p>
	<p>閉会 前田 栄副会長閉会あいさつ</p>
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次第 ・ 水道審議会委員名簿 ・ 参考資料 (ときがわ町水道審議会条例) ・ 資料No.1 ときがわ町水道事業経営戦略 (素案) ・ 資料No.2 経営戦略に記載する主な内容 ・ 資料No.3 ○○市水道・簡易水道経営戦略